

健康 ぷらざ

予防接種を嫌がる 子どもの対応

指導：神川小児科クリニック 院長 神川 晃

企画：
日本医師会

No. 451

元気な子どもも病気にならないように予防接種をします。痛くて嫌な思いを少しでも減らすために、どうすればよいでしょうか。

子どもにちゃんと話してから受診しましょう

子どもに予防接種へ行くことを告げないで医療機関に行くと、子どもは騙されたこと^{だま}に怒り、興奮して大暴れし、深く傷つくことがあります。

その結果、次の予防接種がもっと難しくなります。「怖い病気がいっぱいあるけど、病気にならないように守ってくれる注射があるんだよ」「病気が怖いから、注射しに行こうね。ちょっと痛いけど、〇〇ちゃんなら頑張れると思うよ」などと話してから医療機関を受診しましょう。

子どもをしっかり支えましょう

子どもの体をしっかり固定しないと、子どもが腕を動かして力が入り注射による痛みが増してしまいます。

図のように子どもを医師に向かって前向きに抱っこします。右腕に注射する場合は、右足を保護者の両足で挟み、右腕で体をしっかり押さえ、注射する右腕のひじの部分を保護者の左手でしっかり固定しましょう。



子どもを 誉めてあげましょう

医師は子どもが痛がらないよう、細い注射針で、痛みの少ない部位に素早く接種します。注射針を抜くと同時に声掛けもしましょう。

医師も「痛かったね」「頑張ったね」「強かったね」など話しかけます。保護者の方も「泣かないで頑張ったね」「泣いちゃったけど偉かったね」「お姉ちゃんになったね」「お兄ちゃんになったね」など声掛けして、嫌な記憶をリセットできるように、しっかり誉めてあげましょう。

予防接種は子どもを守る有効な手段です。できるだけ子どもに負担をかけないように、医師と保護者で協力しあって予防接種を安全に実施しましょう。